

個人信用スコアシステムの利活用と規制

— チーマ信用を例として —

ゴカンウ (Wu Guanyu)

Keywords : チーマ信用、個人信用スコア、社会信用システム、個人情報、パーソナルデータ

1 目的

本研究の目的は、今中国政府が推進していた社会信用システムの現状、成果と潜在的なリスクを紹介そして分析したり、個人信用スコアを使うコストともらえる収益を検討したり、経験や示唆を提供できることを期待します。本研究は、単純な技術面ではない、社会的な問題点にも関心を持ちます。中国政府は社会信用システム構築企画要綱（2014—2020年）を公布した以降、統一的な社会信用システムを整備しています。一番注目されたのはアリババ系のチーマ信用で、チーマ信用が社会に実装していた四年間、消費者のコストと収益に関する議論も絶え間ありません。そのコストと収益の論点の一つは、主に個人が自分の情報を企業あるいは政府へ提供する義務と自分の個人情報とプライバシーをコントロールする権利とされます、これも本研究の中心です。

2 方法

本研究の調査・分析方法は、主にデータ調査と事例分析を使います。データ調査は、社会信用システム構築企画要綱（2014—2020年）が公布した以降の信用スコア産業の発展状況を調査し、信用スコア市場の増幅のデータを収集し、中国における個人信用スコアが発展していることを示します。そして、事例分析は、個人信用スコアの利活用の事例を調査し、潜在的な問題点を見つけ出し、最後はその問題を解決する方法を模索します。それ以外、比較分析を使って、中国だけではなく、日本あるいは欧米諸国の現状を分析して、国際的視野から個人信用スコア産業の利活用と規制を考えます。

3 結果

調査・分析の結果、中国政府は要綱が公布した翌年で、市場規模は109.9億人民元だけで、2020年の市場規模は341.5億人民元と予想されます。CAGRは26.3%と計算し、個人信用スコア産業が高騰的に発展しています。そして、チーマ信用の応用については、信用スコア可視化が利便性をもっているとともに、個人情報やプライバシーのコストも増えます。一方、社会的、倫理的な問題については、例えば、監視社会、差別視など様々な新たな問題を解決するとも期待されます。個人信用スコアの問題は、単なる技術面だけではなく、消費者と企業そして市民と政府の間の信頼関係はもっとも重要な問題とされます。その信頼関係ということ構築するのは、まず、個人のコストと収益のバランスを確保しなければいけません。事後補償、適当な利益の還元など方法で利用者たちへ収益を確保したり、個人情報あるいはパーソナルデータの収集と利用の開示、データセキュリティの整備など方法で利用者たちの不信感を打消したり、第三者機関の監督、政府の公権力の濫用を防止し、最後は、スコア可視化を制限し、信用スコアの定義とアルゴリズムも再検討します。

4 結論

以上により、社会信用システムを構築すれば、信頼関係は不可欠な基礎と思います。信頼関係を作るのは、まず利用者のコストと収益の間のバランスを確保しなければいけません。また、今のビッグデータ時代は、個人情報を絶対に守ることは難しいになり、サービスや社会福祉を享受しているとともに、自分の個人情報を対価としてに支払うことはビッグデータ時代の流れかもしれませんが、そうしたら、その「取引」の公平性を確保することはもっとも重要だと考えます。

【主要参考文献】

TalkingData: 个人征信行业研究报告 2017

中国国务院: 社会信用システム構築企画要綱 (2014—2020年)